

函館・高橋

移転新築へ来春着工

リハ室拡充、機能回復強化

函館市の高橋病院（高橋肇理事長・119床）は、2023年春の着工、24年秋のオープンを目指し移転新築を計画。利便性と環境を整え、ICFに基づいたリハビリや高齢者、長期入院患者等の身体機能のさらなる維持回復に向けた強化を進めていく。

同病院は1894年に設立された高橋米治医院を始まりとし、現在の建物は1956年に建てられ2000年に改築が行われている。内科と整形外科を中心とした外来

と、地域全体でリハビリテーションを中心とした医療福祉ネットワークを展開しており、03年に電子カルテシステム導入、08年には地域医療連携システム「ID-Line

」を全国初で稼働開始、ほかオリジナルソフトの様々な開発などICT活用のパイオニアとしても知られる。

こうした中で建物の老朽化と、急勾配が多く高齢患者にとって通院に不便な立地であり、デマン

ドバスサービスを展開するなどの工夫をしてきたが、利便性を高め、市内全域のニーズに応えることを考え新築移転を決めた。

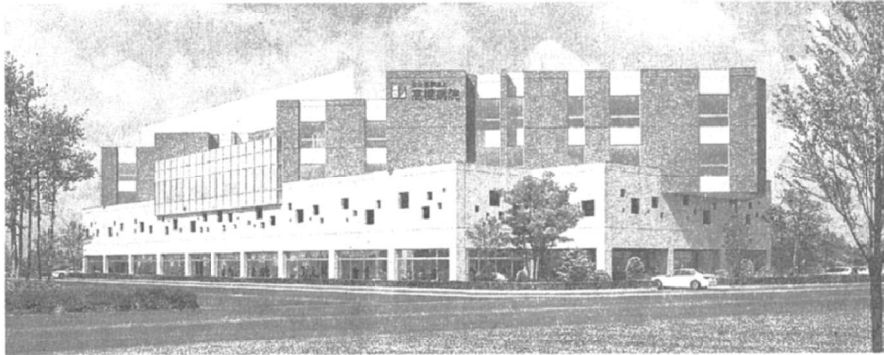
移転先は、同市中央に位置する時任町のJR住宅跡地。市電の千代台

電停から近く、他の医療機関との距離も縮まり密な連携が取りやすくなる。規模はRC造4階建て延べ9200㎡で、標榜科目は変わらない。総病床数119床は同じだが、一般病床を20床減らして39床とし、回復期リハビリテーション病棟を80床に増やす。

1階は自然光を積極的に取り入れた明るく快適な造りとし、外来診察室、各種画像検査室を配置。外には屋外庭園や駐車場としても活用できるピロティを置く。

2階は回復期リハビリテーション病棟と400㎡以上のリハビリテーション室、3階は一般病棟と介護医療院とし、4階に医局や会議室、職員がリラックスできるようなカフェスタイルのラウンジを設ける。

基本設計の段階での外観イメージ



Hospital & Clinic